

平成22年

季刊

新春号

Vol.32

亞東



社団法人亞東親善協会創立六十周年記念祝賀会：憲政記念館



社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

社団法人 亜東親善協会の概要

名 称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目 的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

季刊「亜東」平成二十二年 新春号目次

亜東親善協会の概要・目次	二頁
今年の課題について	三頁
西郷菊次郎碑について	四頁
会長玉澤徳一郎 主催者挨拶	五頁
来賓祝辞 馮 寄台閣下	七頁
来賓祝辞 平沼 赳夫先生	九頁
来賓祝辞 清原 武彦会長	一〇頁
祝電披露 中華民國馬英九總統	一二頁
講演記録 塩川 正十郎先生	一三頁
講演記録 中田 宏先生	一九頁
亜東親善協会六十周年懇親会	三〇頁
新春号名刺広告	三一頁
顧問・関係団体・役員名簿	三四頁
お知らせ 編集後記	三五頁

社団法人 亜東親善協会の概要

名 称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二―七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目 的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

季刊「亜東」平成二十二年 新春号目次

亜東親善協会の概要・目次	二頁
今年の課題について	三頁
西郷菊次郎碑について	四頁
会長玉澤徳一郎 主催者挨拶	五頁
来賓祝辞 馮 寄台閣下	七頁
来賓祝辞 平沼 赳夫先生	九頁
来賓祝辞 清原 武彦会長	一〇頁
祝電披露 中華民國馬英九總統	一二頁
講演記録 塩川 正十郎先生	一三頁
講演記録 中田 宏先生	一九頁
亜東親善協会六十周年懇親会	三〇頁
新春号名刺広告	三一頁
顧問・関係団体・役員名簿	三四頁
お知らせ 編集後記	三五頁

今年の課題について

会長 玉澤徳一郎

新年明けましておめでとうございます。

本年もよき年でありますよう会員皆様の御健勝とアジアの安定と世界の平和を祈念申し上げます。

昨年は、当会にとりましては、創立六十周年を迎えた 記念すべき年でありました。先人の御功績と会員の皆様のご協力得て、今日があることを、感謝申し上げます。

今年は、六十周年の基盤の上に、原点を大事にして、更なる発展を期して進む年にしなければなりません。

何卒、会員各位には、御鞭撻

あらんことをよろしくお願い申し上げます。

さて、今年を展望しますと、日本の将来を左右する大きな課題が横たわっていることに気がつくかと存じます。私は、あえて三つの課題をあげます。

政治交替によって提起されたものは、

- (一) は、日米安保 是か非か。
- (二) は、東アジア共同体、是か非か。
- (三) に、外国人参政権 是か非かであります。

公平を期するために、私の見解を述べて、会員皆様のご意見をお聴きし、会の運営に役立てて参りたいと存じます。

第一の問題は、日米同盟が鳩山政権の迷走によって危機にひん

していることです。普天間基地の移転問題を、年内に決断できずに先送りしてしたことによって生じた問題です。

「移設先は県外か国外に」ということは、すでに自民党政権のときに、グアムに八千人を移すことをきめ、国内にも、米軍の一部を移設して沖縄の負担を軽くしたのち、名護市辺野古に縮小した基地をつくることで合意したのです。

辺野古を県外か国外にということをお願いしたら、全体の計画が御破算となり、全部もともどることになるのです。

国と国との外交は、相手との信頼関係でなりたつのです。前政権がしたことであっても、現政権が、これを守ることができなれば、信頼を裏切ることになり、日米同盟は解体にむかうことでしょう。

ここで第二の課題と関連してきます。中国は東アジア共同体構想に賛成しました。オバマ大統領が、中国にG2でゆこうとの呼びかけを拒否してのことでした。

小泉政権のときの東アジア共同体構想には、米國、オーストラリア、ニュージーランドも入っていました。鳩山政権では、明確に米國をはづしてあります。米國とは離反して、中国にすりよろうということでした。

小沢幹事長は、国会議員を含めた六百人の訪中団で朝貢外交をし、天皇陛下のご日程に横やりを入れて、習近平副主席を会見させた。

米國をはずして、東アジア共同体をつくれれば、人口でも経済力(将来)でも優勢な一党独裁の中国の思うがままの体制になることは目に見えている。

この共同体構想を押し進めようとする政策が、第三の外国人地方参政権である。EU各国や韓国で行われているというのが賛成派の云い分であるが、これは、相応に高いハードルが課せられての参政権である。

ところが連立与党の社会党は「日本滞在三年の者に参政権を与える」と公言している。

そのネライをあえて読み解けば、在日外国人は、一番の多数は、皆 韓国籍（約六十万）の人ばかりと思っているであろうが、今や中国人（約六十七万人）が韓国人を抜いて一番となり、永住者も毎日一万人を越えてトップである。

地方参政権であっても、選挙戦になると国政に与える影響は大である。

オリンピックのリレーの際に

見えた、中国政府の統制のもとに中国人集団がみせた暴力行為を忘れてはならない。

さらに日本では、外国から一千万人を移民として受け入れようとする議員連盟があることも知らなければならない。

アフリカに中国が、一億人の漢民族を移住させようとの計画もあると聞く、日本もそのようなターゲットにされようとしていることを知らなければならない。

以上、三つの課題に今年は、とりくむ考えですが、会員の皆様のお考えを声として寄せていただければ幸甚です。

【西郷廳憲徳政碑】

台湾における治水工事は、烏山頭水庫の八田與一氏が有名です。日清戦争後に宜蘭縣庁長になりました西郷菊次郎氏がおります。菊次郎氏は、西郷隆盛の長子として奄美大島で生まれました。父に従い西南戦争に従軍、右胸膝下切断の銃創で官軍に投降。アメリカ留学後、下関条約で割譲された台湾に赴き、明治三〇年宜蘭縣庁長を命じられました。

宜蘭は台湾第二の蘭陽平原であり、そこを流れる宜蘭河は、毎年氾濫を起こしていた。台湾民衆の生活様式や習慣を尊重しつつ、インフラ整備、治水工事に巨額の費用を投じ、約一年半、延べ約七万人の人員を投入し大堤防西郷堤・治水工事が功を奏し、水害は根絶された。

この恩恵に菊次郎の政治を高く称え、宜蘭の有志が碑を建立。

昨年、李登輝元總統謁見の際、菊次郎氏の碑の話をされ、是非、亜東親善協会は、訪れたらとのこと。同席の斉藤大使も行かれた事があり、最近、馬英九總統も訪れたとのこと。

昨秋宜蘭河畔の碑を尋ねました。明治三八年建立されたが、台座には、大正十二年十月建立と刻まれておりました。

本年三月訪台団は、【西郷廳憲徳政碑】を尋ねる日程で計画立案をしております。（事務局）



社団法人亜東親善協会

創立六十周年 第一部記念式典

平成二十一年十一月十六日

衆議院事務局憲政記念館

開会の辞

社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江康弘

社団法人亜東親善協会創立六十周年記念式を挙行いたします。

当協会は、昭和二四年東京で民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で設立された「華南倶楽部」が発祥であります。

元宮家・閑院宮春仁王が創立

され、その後、千葉三郎先生が

引き継がれ、今日の協会組織を

創られ、強化発展の為に、岸信

介先生、福田赳夫先生、灘尾弘

吉先生と諮り、社団法人亜東親

善協会を設立されました。

二代目会長に、原文兵衛先生

が、参議院議長のお職のまま就

任され、その後、永年衆議院で

活躍された藤尾正行先生が引き

継がれ、現在、玉澤徳一郎先生

が四代目会長となり、会の目的

でもある日本と中華民国台湾の

親善・友好のために活動を続け

てまいりました。

本日、御臨席賜りましたご来

賓・関係諸団体の皆様、またご

参会頂きました皆様、誠に有難

く厚く御礼申し上げます。

ここで、主催者側より、当協

会会長、玉澤徳一郎より挨拶を

申し上げます。

協会会長挨拶

本日は亜東親善協会の記念す

べき創立六十周年の式典に台北

駐日経済文化代表処の馮寄台代

表閣下、ならびに衛藤征士郎衆

議院副議長先生また御来賓の皆

様、会員の皆様にご出席を

賜り盛大に開催することができ

ますことを心から感謝御礼申し

上げます。

当会の創立は、昭和二四年一

九四九年八月に華南クラブとし

て発足したのがはじまりです。

目的は日華両国民が互いに国

家的対立や民族的対立をこえて、

ひたすら東亜人として東亜の安

定と民族の平和幸福を念願して

同志の結合を固くしようという

趣旨で発足しました。

戦後、日本に亡命された多く

の親日友人の方々の救援にも力

を注いだのであります。

元宮家の創立者である閑院春

仁氏が就任され、会長のご人徳

とご活躍により、会の発展は

かられました。

そのあと会長として千葉三郎

先生が就任され、社団法人亜東

親善協会となり初代会長となり

ました。千葉先生は反共産主義

の立場から、日華提携に尽力さ

れました。

とくに一九七〇年代に日中国

交回復運動が起こってきたとき、

当時の自由民主党は党議として

「中華民国とは外交を含む従来

の関係を維持しながら日中国交

正常化交渉を行う」ことを決め

ていたにも関わらず、佐藤内閣

から田中内閣に変わることによ

り昭和四七年一九七二年九月に

突如訪中して党議の決定を無視

し日中共同声明を発し日中国交

を行い一方的に中華民国と断交



玉澤徳一郎会長 馮寄台閣下・平沼赳夫代議士・衛藤征士郎副議長・清原武彦会長

このことは第二次大戦終結に際し、流民と化した我が日本人同胞数百万人の運命を以德報恨という立派な精神をもって救っていたのだいた蒋介石総統のご恩に仇で報いる行為であったと言えるでしょう。

このため在日中の留学生や商社マンや一般国民華僑の皆様は突然国交のない国民となり、国家の保護が受けられない不安が広まりました。

このとき、千葉会長をはじめ協会は要路に働きかけ、できる限りの力を出し、手を尽くし、応援の手を差し伸べました。国の交わりがなくなっても人と人、心と心の交わりを大切にしてお互いに友好平和を実現していこうという実践を行いました。

私も千葉先生のもとで多くの留学生と集会を開き、事態の鎮静化に努力したものでした。

第二代会長には原文兵先生、第三代会長には藤尾正行先生が就任され日本と中華民国台湾との関係強化に努力され今日に至っています。

台湾におきましては、李登輝総統のもとに自由と民主主義体制が確立され政権が二度変わりましたが、我々は一貫して国交がなくても心と心の結びつきを大事にして日台関係の友好強化を目指して今後とも活動して参る所存であります。

一方中国は文化大革命によって国内に大きな亀裂が生じ、中国共産党に対して民衆の離反が相次ぎましたがそれを繋ぎとめるために極めて卑怯な手段として反日運動が全国内で展開されていました。

そして、日本が再び攻めてく

るといふ口実をもとに軍事拡大路線が進んでいることはまことに遺憾であると存じます。

中国は経済に資本主義体制をくみいれながら、共産党の一方独裁を維持しています。

私は日中の経済交流は決して否定するものではありませんが、資源を武力で確保しようとする中国の軍事的意図を十分警戒しなければならぬと考えています。

アジアの平和の障害にならぬよう抑止体制を固め、しっかりとした体制を作つていかなければならないと存じます。

今後とも会の趣旨に基づき、会員の皆様と精進努力することをご祈り申し上げ式辞挨拶と致します。

司会 大江康弘

私は大変拘りが有りもう三十年台湾とのお付き合いをしていますが、二年前にあしなが協会から台湾の小学校中学校の子供さんが大使館に來ましてたまたま私がお会いした時に何か質問はないかと尋ねると、小学校五年生の女の子が「何故台湾は日本に來たら駐日経済文化代表處というのか？何故大使館と言わないのか？」という質問を受けとても心が痛みました。

これに対し私は日本の政治家がだらしなからだと（ご理解戴けたかは解りませんが）申し上げました。私は予ねてから代表處は皆さん駐日の大使館であり、そしてそこに勤めておられるトップは大使であると思つてきた一人であります。ですからその思いを込めまして、今日は来賓のご紹介をさせていただきます。

来賓祝辞

台北駐日経済文化代表處

代表 馮寄台閣下

玉澤会長、平沼会長、衛藤先生、清原会長、御來賓の皆様こんにちは。

本日は協会設立六十周年記念式典のご開催、誠におめでとございます。お祝いの言葉を申し上げます。

貴協会は設立されて以来日本と台湾の交流促進のため着実に日台友好の実を結んでこられました。とくに本年三月十九日から二十二日にかけて玉澤会長が率いる訪問団は、馬英九總統と日中・中台関係などについて話し合い多々貴重なご意見を戴きました。

私は日本に着任して満一年と

なります。この一年間、数多くの政界、学者、マスコミ、経済界、華僑のリーダーとお会いし日本の政治・経済・社会および日台関係などについてのご意見を伺いましたところ、日台関係は非常に密接であることが判り共感を持ちました。

台湾駐日代表處は今年五月に初めて日本人の台湾に対する意識調査を委託により行いました。その結果、日本人の七六%が、日台関係が良好であると考へ六五%が、台湾を信頼しておりそして約二割が台湾を訪れたことがあると判りました。

ほぼ同じ時期に、台湾にある日本の代表機関である交流協会も台北でこれと似た世論調査を実施しました。その結果、台湾人のもつとも好きな国は日本であり、第二位が米国、第三位が

スイスでした。また、台湾人が最も信頼する国及び旅行に行きたい国も日本でした。

現在年間約一四〇万の台湾人が日本に観光に来ています。そして約一一〇万の日本人が台湾を旅行しています。今、日本は台湾にとって第二位の貿易パートナーであり台湾も日本にとって第四の貿易パートナーとなっており両国民はお互いに好感を抱き親密な関係にあることを表しています。

過去一年間、台日双方は交流を強化するために三つの協定を締結しました。

来年は東京羽田空港と台北市内の松山空港を結ぶ直行便が就航します。若者にワーキングホリデービザを発給する制度も今年六月からスタートしました。また我々は毎年三〇万人近く北

海道を観光している台湾人のために、札幌市に代表處の支處を開設します。

現在台湾新政府は東京に台湾文化センター開設に向けて努力しているほか、故宮博物館の文物を日本で展示できるよう積極的に進めています。

それに加えて台湾の国立政治大学には九月に日本研究センターが開設され今後は新たな台日関係を切り開く次世代の知日派を育成していきます。

台湾の馬英九總統は今年を台日特別パートナー関係促進年と位置づけており、台湾と日本の

経済、貿易、文化、青少年観光対話などの交流を推進しているところです。

今年八月八日に台湾を襲った台風八号は五〇年ぶりに台湾に甚大な被害をもたらしました。災害発生後、日本政府はすぐに緊急支援をして下さり続いて国際協力機構 JICA から専門家を台湾に派遣し、台湾に対して暖かな友情を示してくれました。貴協会を始めとする日本の民間の方々からも当代表処にお見舞いやご寄付を戴きました。台湾政府および国民を代表して重ねて感謝申し上げます。皆様方の台湾に対しての今までの力強いご支援に改めて厚く御礼申し上げますとともに

貴協会の益々のご発展および、ご臨席の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ挨拶にかえさせていただきます。



下 閣 台 寄 馮 代 表 處 文 化 日 駐 北 台

司会 大江康弘

続きまして日華議員懇談会会長
衆議院議員 平沼赳夫先生より
ご祝辞を賜りたく存じます。

日華議員懇談会会長
衆議院議員 平沼赳夫先生

今から三〇年前 私は国会議
員にならせて頂だき、その時、
真つ先に行かせて頂だいた外国
が台湾でした。

その時の日本は台湾中華民国
に四つの恩頂いています。

一つは戦後の膨大な買収請求権
をすべて放棄してくださった事。
これは日本の復興にとって非常
に有難いことでした。

二つ目は極東委員会を中心に日
本の天皇陛下を戦犯にしろとい
う要求がありました。日本の

陸軍士官学校を出られた蒋介石
總統は、断固連合国側でその反
対を唱えて下さいました。

三つ目は我が同胞が満州国を中
心に五〇〇万人大陸に渡ってお
りましたが、共産軍とし烈な戦
いをしているにもかかわらず我
が同胞五〇〇万人を無事に帰国
させて下さいました。

四つ目は戦後の日本を朝鮮半島
やベトナムやドイツと同じよう
に分割統治をするという意見が
戦勝国で強かったのですが、日
本の実情をよく知っている蒋介石
總統を始め台湾の方々がその
ことを阻止して下さいました。

この四つが日本の戦後の復興
にとって非常に大きな意味があ
りました。ですから私は三〇年
前に国会議員になって最初に選
んだ外国が台湾だったので。



そのとき林錦清先生も現役の外
交官として活躍されており、そ
して亜東親善協会は昭和二四年
以来六〇年間そういったことを
中心に両国の発展親善に尽くし
てこられたわけであり、その活
動の意義は非常に大きかったと
思っています。

初代は千葉三郎先生が今申し
上げたことをよく理解されてそ
して両国の親善発展のために務
められました。

そして原文兵先生もその後を
引き継いで立派に日本と中華民
国台湾の関係をより強化なもの
に築かれました。

三代目の藤尾正行先生は本当に
台湾中華民国を愛した方で、私
も薫陶を受けて大変ご指導をい
ただいた方です。

現会長の玉澤徳一郎先生は、衆議院で私の一期先輩であり大変台湾中華民国に対する造形の深い方であります。

例えば馬英九總統が總統選挙の前に日本に來られて我々と歓談をした際、玉澤会長は決然と立たれて馬總統候補に「あなたは尖閣列島の問題で一家言持つておられるようですがその所見を聞きたい。」と日本人としてそういう質問をされました。

その際、馬總統候補は「自分はアメリカの大学を卒業する際の論文に、尖閣列島は台湾の領土だという論文を書いてその考えは間違っていない。」と言われましたが、やはり日本人として台湾中華民国との関係を重視する玉澤会長が決然とそのような質問をされたことを、私はある意味では日本人として立派なことだと思つています。

日台間には大きな共通の問題があります。台湾海峡を睨んで、中華人民共和国が既に一二〇〇発を超える中距離弾道弾を配備しています。

もちろん核搭載可能であり、両国の安全にとっては避けて通れない重要な問題です。

このようなこと一つとっても両国がその親善を深めてそして将来の平和と安全のために努力していかなければなりません。

亜東親善協会の使命もまさにそこにあると信じており、亜東親善協会の益々の発展とそして本日の参会の皆様方のその問題に対するご理解をより深めて頂くことを心からお願いを申しあげましてお祝いの挨拶にかえさせていただきます。

司会 大江康弘

株式会社産業経済新聞社・代表取締役会長 清原武彦様より、ご祝辞を賜りたく存じます。

株式会社産業経済新聞社
代表取締役会長 清原武彦様

本日は亜東親善協会の創立六十周年記念式典にお招き頂き有難う御座いました。心よりお祝い申し上げます。

日本と台湾は同じ価値観を共有しており、経済的にも安全保障の観点からも共存共栄の関係にあります。

然るに戦後の長い期間日本の政府議員そして多くのマスコミの厚い目が中国大陸に注がれ、一方で台湾に対しては中国の栄光を気にしてまるで腫れものに

触るように腰が引けていた態度であることは紛れもない事実でした。

そのかいあって、亜東親善協会が六〇年もの長きにわたって日台間の友好親善関係の発展のために努力してこられたということに心より敬意を表したいと思つています。

また本日出席されている馮寄台駐日代表閣下におかれましても、この夏は日台間で青少年のワーキングホリデー協定を実現し、台北松山空港と東京羽田空港とを結ぶ航路開設でも合意するなど在任僅か一年余りで日台友好の発展に向けて数々の具体的成果を挙げてこられたことに感謝いたします。

台湾では昨年五月馬英九總統が就任され、中国と台湾の関係

は経済協力を軸に急速に改善されました。海峡兩岸安定は日本、そして地域の安全とも密接にからむ問題でありもとより私どもは歓迎するところであります。

只、一方において政治、経済、軍事共に強大な影響力を持つ中国の台頭はG2時代即ち米中の時代の到来を予感させる問題でもあり、我々はその行方を注視していく必要があるでしょう。

日本の対中政策、東アジア政策は私が考えるところあくまでも盤石な日米関係の上に組み立てられるべきであることは疑いありません。むしろ台湾の安定しかりであります。

そうした中で鳩山新政権が唐突に掲げた「東アジア共同体構想」がいかなる内術を持つもの

であるのか。まさか中国への中傷などから生まれたものではないと祈っています。その内容について私は若干の懸念を持っています。

振り返れば産経新聞は一九六七年北京から柴田実記者が国外追放され、それ以降北京支局は三一年間の長きに渡り閉鎖される状況に追い込まれました。

その一方一九七二年の日台断交後、産経新聞は日本のメディアとしては初めて台北に支局を開設し経済再建と民主化路線を確立した中国国民党の蔣経国総統から李登輝總統に至る時代を孤軍奮闘の形で伝えてまいりました。

そして一九八八年私は当時産経新聞社社長として訪中をし、

あくまでも台湾の台北支局を存続させることを主張したうえで産経が北京に中国総局を開設することで合意に達しました。

それまで中国の意向を気にしていた日本の報道各社はこれを見てただちにこの方式に続き今では台北に世界最大勢力となる一〇社の日本メディアが常駐に至っております。

日本にとって極めて重要な台湾情勢が産経のみならず各メディアによって日本に報道され、多くの日本国民の目に触れるようになったということを私はいち私企業の立場ではなく、大局的な視点から喜びたいと思いません。

産経が台北に単独支局を開設した時代を思い起こせば実に考え深いものがあります。

冒頭、私は、亜東親善協会が六〇年もの長きに渡って日台間の友好自然関係の発展のために尽くしてこられたことに敬意を表しましたが、これは同志すなわち同じ志を持つ者としての考えを込めての発言でありました。

当協会が設立時に掲げられた、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同士の交流を深める目的は見事に達成されています。今、激変する国際情勢の中で新しいアジアの時代が幕を開けようとするとき議会制民主主義を確立し世界第三位の外貨準備高を誇る台湾がさらなる発展を遂げることを願ってやみません。

台湾と日本の友好関係が更に発展し、それがアジアの平和と親睦に寄与することをお祈りして私の挨拶とさせていただきます。

産経新聞社 清原武彦会長



亜東親善協会 張建國副会長



祝電披露

中華民國總統 馬英九閣下より
祝電を頂戴致しております。
当協会副会長 張建國が翻訳
代読いたします。

日本亜東親善協会、玉澤徳一郎
会長ならびにご参会の皆様。
貴会は本二〇〇九年十一月十六
日、日本の東京に於いて、創立
六十周年記念活動を行うに当た
り茲に祝電を申し上げます。

永年来、貴会は台日両国の実
質的な関係と双方の協力関係の
増進に大きな成果を挙げられて
おり深く感服に値するもので有
ります。

今後、貴会が台日両国の特別
なパートナーシップ関係の引き
続きの発展の為に積極的にその
役割を果たされることを祈念す
るものであります。
協会の皆様のご多幸、ご健勝を
お祈りいたします。

台北駐日経済文化代表處
馮寄台閣下へ感謝状贈呈



亜東関係協会・彭榮次会長より
功労状並びに記念品の贈呈



社団法人亜東親善協会

創立六十周年 第二部 講演会

講師紹介

社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江康弘

社団法人亜東親善協会創立六十周年記念講演会を開催致します。本日最初の講師 公務ご多忙の中、ご講演を快く承諾して頂きました。元衆議院議員 塩川正十郎先生をご紹介申し上げます。

皆様、ご承知の通り、愛称「塩爺」は、一九二二年大阪府布施市生まれ、八八歳になられます。慶應義塾大学経済学部を卒業。一九六七年 第三二回衆議院議員総選挙で大阪府第四区自民党から初当選。二〇〇三年引退。

その間、内閣では、運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治

大臣・国家公安委員会委員長、財務大臣。党職では、総務会長、学職では、学校法人東洋大学理事長、その他、財団法人日本武道館会長を歴任。

現在は、学校法人東洋大学総長、財団法人関西棋院理事長、日本相撲協会運営審議会委員、自由国民会議代表に就任。

勲一等旭日大綬章を叙勲され、東大阪市名誉市民を贈られています。では、塩川正十郎先生宜しくお願い申し上げます。

元衆議院議員 塩川正十郎先生

本日は亜東協会が創立されて六〇周年という非常にお目出度い年で有りまして丁度還暦を迎えたいんだという気がしています。私がこの協会に関係するようになりしたのは、昭和三九年であり昭和四二年初当選した際

に岸先生からこの協会に入れたいということで入会させていただき、以降皆様と活動させていただいた仲であります。

丁度一カ月前に行事があり、東京青年会議所が李登輝さんを招待し一晩いろいろと懇談させていただきました。

それだけに私達は後藤新平賞という賞があり、国際貢献に果たした人に対する賞状を授与するというものであります。

その後藤新平賞を李登輝さんに一昨年貰って頂いたことがあり、そのお祝いも兼ねて一カ月ほど前に会合をさせて頂いた次第です。

非常に台湾の将来、そして日本と台湾との関係の重要さをつくづく先生がおっしゃっておられたことを申し上げたいと思っています。

現在民主党政権になりましたが、どうも国民が皆呆けているのか政権交代という意味が解っていないのではないかと思うのです。

このことについて私は日本という国が本当に欠陥を与えてきてしまったと思っています。

政権交代とは一言で言いますと民主主義の国に在り、とくに議会制民主主義の国においては一種の革命であるのです。

民主主義国でないところは武力で戦争をして政権をとるので。ところが、議会制民主主義の国では選挙によつて政権が変わります。ですからその政権が代わってしまったら、前の政権と今の政権が違うというのは当然のことではありますが、

ところが今日本の学者などに聞いてみましても内閣改造しか思っていないようで内閣改造

は政権交代とはまったく違いますが。その認識が全くないよう感じとても残念に思います。

それではどう変わったのか、一言で申しますと昔私たちが学生時代に習いました労働文明を

中心とした政権ということになっており、政治的に言えばこれは社会主義政権であるということです。ところが社会主義政権ということとは表に出さず、分配を中心とした政権であると私は思っています。

そこで臨時国会を行った際、確信を衝いた事をひとつも質問していないことに自民党は駄目だと思ってしまう。何故党首である谷垣さんが「民主政権とはどういうものですか」ということをきちんと哲学論争しておかねばならないのに全くそれがなされておらず、しようも

ない献金の問題など自民党も民主党もみんながやっていることに対しての質問ばかりされている感じがそうではなく、民主政権の思想は何かということをはつきりさせねばならないと感じました。

唯一つ私はずっと聞いている中で、加藤紘一さんが「友愛政治とは何か？」と突っ込んでおりましたが、このことに対し電話で「なぜもつと突っ込まなかったのか？」と聞くと「時間が無かった」とのことでした。

こういう事では自民党は政権奪還をできないと思えました。これは我々政権を経験してきた者自身がしつかりと政権交代は何であるかということを訴え、はつきりする必要があると考えています。

先日、米国大統領のオバマ氏がわざわざ来日されましたが、この扱い方はなんだ、こんな馬鹿なことをやって我々はASEAN諸国から笑われてしまっていることだろうと思いました。

一体どのような会談をしたのでしょうか？お互いの顔を見ただけで名刺の交換をした程度ではないのか？このような大事な時期になぜこんなことをしているのか。オバマ氏も初めての来日で最初にサントリーホールで演説を行いました。なぜ国会でやらないのかと思いましたが、こんなおかしな国会は私はないと思います。

そのことについて私は自民党のある幹部に直接電話をしましたが「そんなこと判らない、あれは民主がやっていることだ。」と言われてしまいました。そ

のような感覚ではダメだと、サントリーホールで開催が決まった時になぜ国会で開催をしないのかとつこまなかつたのかと、蚊帳の外だなと感じてしまいました。

しかも、オバマ氏は普天間問題について「我々は決まったことをやってくれると思う。」と書類に書いてあったのみでした。しかも鳩山氏が先にシンガポールに行ってしまったという何とも礼儀のない話です。

本来ならばオバマ氏が来日されサントリーホールで演説をされているのですから、その後には日本はシンガポールに行くべきではないかと思ひ私はとても心配になりました。

今の日本にとって外交問題が一番大切な問題であり、児童手当や高速道路の問題などは内政



問題であり日本の基本問題からすれば大した問題ではないと私は思います。

このようなことを平気でやっていて予算がつかなかった場合は一体どうするのかということ

今のうちならばマニフェストは方向性よりも実施するならば程度修正する必要があると考えています。

修正するには皆さんが納めている税金との関係を考えていかなければならないし、実施をするには法案の提出をしなければならぬので若干時間と修正を要しますが、しかし、児童手当を出すという方向、高校の無料化をするというこの方向性は変えないが実施についてはしばらく猶予してほしいと思います。

もし二年以内に児童手当を実施することになれば五兆六千億円の予算が必要です。

私は財務大臣をやっておりますので、その役所の人たちを呼んでみました。国債が現在四〇兆、四四兆円と言っておりませんがそんなことでもいいのかと、

そのような表現でよいのかと。

我々が言っているのはほとんど書き換えがありますので、国債の年限というのは一〇年が圧倒的に多くもしくは五年なのですがほとんど書き換え、これを既発債と言いますが、この既発債の書き換えが一〇〇兆円を超えているのです。

そして今度新規に発行するのが四四兆円だと言っているのです。そうするとどういうことになるのかといいますと、合計すると約一五〇兆円もの国債もつと減るか。こうなりますと国債の金利がかかってくる。金利がかかるということとは固定の金利、現在の国債一〇年分が一、五%でありこれは国際的に言ってもあるいは証券市場のルールからいっても変えることはできない

のです。けれども一〇〇円のものを一〇〇円で買って初めてなりましたますが、もし一〇〇円のものでも九九円になってしまったらどうなるでしょう？そういった事態が起こるかもわかりません。

つまり今現在日本の金利は、皆様を受け取っている定期貯金ですとかあるいはそのような規定の国債の金利は変わっていませんが、しかし値段が変わってきているということをしつかりと考える必要はないのです。そのことを国民は意識してないのです。

ですからこの児童手当がもらえるようになったらいいなどと簡単に考えて、国民はパーツと民主党に票を入れてしまったのであります。これはマスコミの失敗でもあります。

マスコミが何とかして民主党
政権を取らせよう、つまりマス
コミの組合と民主党同士が通じ
ていますから何とかしてやらせ
ようとこのようなことからやっ
てきた問題であり、これは是非
改正してもらわなければならな
いと思います。

ですから私は来年1月からの
予算委員会で自民党がどのよう
な質問をするのかによって日本
の将来も大きく拘わってくるだ
ろうけれども、自民党はこれで
再生できるのかできないのかも
ここで分かれてくると思います。

私二週間ほど前に自民党に呼
ばれ、今度自由国民会議という
ものがありこの会長をやれとの
ことで総会の準備を引き受けま
した。その際に自民党再生は何
を考えているのかと聞きました
ところ、「マスコミにやられた」

「風が吹いたから」などと言う
のです。

しかしその風を起こしたのは
自民党であり、自ら風を起こし
たことについての反省がまった
くないのです。ではどうするの
か？と言われ私がもし自民党の
総裁か幹事長であったならば二
つのことをやると思います。

一つはは来年七月の参議院選挙
でこのときの自民党の候補者を
全部公表させ、そして党員の投
票による評価によって決めるこ
とです。現在の参議院議員がこ
のまま政治もしていない、選挙
運動もなにもしていないこの状
態では来年は全滅でしょう。
東京都の中でも現在定員は五
名であり、このうち二人は民主
党なのです。

この二名は組合と市民団体で

すからとても強いでしょう。あ
とは公明党一名、共産党一名、
後は自民党が一名は役人出身で
なにも経験をしていないのです。

そうしますと民主党は小沢氏
ですから、無所属でタレント性
の自民党も応援できるような者
を出し、自民の票が割れます。

自民党の票が割れたら無所属の
人間が当選するかも知りません。

今、そのような複数選挙区制
というものが一六ありその一六
から四つである大阪、愛知、東
京、北海道もう一つ言いますと
新潟を取り返そうとしているの
です。

この四つの跳ね返りから来る比
例代表が五位に伸びるので、そ
うしますと一一五であるの過半
数がどれだけとればよいかと言
いますと、今民主党では一〇取
ろうとしており、そうしますと
一二五になるので絶対に多数

(過半数以上) になってしま
うのです。

それでは一〇増やせるかと言
いますと、私が調べたところ、
確実にいけてしまうのです。

一二七はいけるだろうとい
う話です。

そうなるかどうかということに
なるか、まず衆議院は三〇九持
っており小泉氏の選挙の際は三〇
二となりました。今度は衆議院
で民主党は三〇九もあるのです。

これは完全に過半数を取って
おりますから、参議院のほうは
先ほど申しました過半数は一二
二ですから、それがあと一〇取
らなくても十分なのです。現在
一一五あるので過半数を取るこ
とは間違いないのです。

こうなった場合衆議院も参議
院も同じだけ取っているのです
ここでどのようなことをやるか
という事は私は大体想像がつい
ています。

衆議員も参議院も圧倒的に民主党がとつた場合に、ちょうど昭和五〇年頃田中角栄氏が自民党を取っていた際、ロッキード事件があつた時に田中氏がずつといわゆるキングメーカーとして後ろにいました。ああいう時代が続くということです。

小沢氏は絶対には出てきません。そして後ろからちよこ指示を出していけばキングメーカーは十分つとまるという状態になるといふことです。

私は今皆さんと一緒に考えていかねばならない一番の問題は参議院においても過半数を取らせないといふこの国民の常識というものを奮起していきたいと思つているのです。

鳩山氏のような方は自分で責任は取りません。その後ろにいつている田中角栄的存在である

小沢氏は本当のプロでありますので、この人物が最高の権力を振るうことができないように参議院と衆議員とを日本人にとつては不幸ではありますかねじれに置いておいたほうが良いと思ふのです。

そして最近、民主党は事業仕訳などを行っていることに對して、今までの無駄を省くともいい考えだと思ふのですがやり方がちよつとまずいと思ふのです。もう少々やり方を研究していくべきだと思ふのです。

やはりその政策がどのような因縁でできてきたのかをよく調べ、これに誰が関係していたのか、そこまできちんと調べ国民にも誰が何をしてきたのかと説明できるようにすることこそ改正の改革の効果が出てくることだと思ふのです。



ですからこれはとてもいいことをやっているのに案外成功しないのではないかと思つています。何故かという、そういった裏にその制度が必要になつた者に対する反論が起こってくるのです。

一つ述べますと、私は過去に文部大臣をしておりますので今相談を受けています。日本の伝統文化を振興する予算はあるのですがこれをいらぬという意見があるのですが、伝統文化というのは国際的な文化交流でも非常に大きな切り目になっていふのです。その中でも甚などの国際活動もすべて切つてしまふというのです。

日本の伝統文化を活動停止してしまふというのか？こういつた予算と言ふのは全体からみると大したものでは無いのにも拘わらず、これは無駄だとしてし

まうのです。

こういうことがないようにして欲しいのですが、そこで問題は一体誰が決めるのかということです。民主党の政治を見てみると、誰がどこでどう決めているのかがわかりません。

一番象徴的に出ているのは今の普天間問題であります。肝心の鳩山氏は「もう少し勉強してから」とおっしゃっているのです。一三年も勉強してきているのにこのようなことを言っているのです。

誰かが決めたことをそちらに回してしまふのです。

最後に出てくるのは小沢氏だと思います。しかし自分自身では出てこず人に使つて出てくるのです。それは国会の中から常任委員長などはすべて小沢塾の出身ですからその人間たちが

出てきて国会で空気を作つてしまふのです。一般大衆はそういった風にすぐに流されてしまうのです。どうか皆様しっかりと考えていつていただきたいと思ひます。

今、アメリカは日本を相手にせず中国と組んでいこうとしています。大統領は上海で若者と対談しようとしているのです。これはどういうことなのかと。

これは中国とアメリカとはお互い友好でいこうという最大の表現が起こつてきており、将来台湾政策にも影響してくるものだと思います。

時代は変わり、従来の自由主義、民主主義の体制であった政権はだらしなく駄目だとそれに代わり出てきたのが社会主義政権であり今出てきたのです。こういった認識をしつかりと持つていただきたいと思います。



多忠和 理事 塩川正十郎 先生 玉澤徳一郎 会長 橘康太郎 副会長

社団法人亜東親善協会

創立六十周年 第二部 講演会

講師紹介

社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江康弘

本日二人目の講師、前横浜市
市長 中田宏先生を、ご紹介申上
げます。

当協会顧問でも有ります中田
宏先生は、一九六四年生れ四五
歳であります。

青山学院大学経済学部卒業
同年松下政経塾に入塾(二期)
一九九三年第四〇回衆議院議員
総選挙に当選以降三期連続当選。
二〇〇二年 横浜市長に初当選。
二〇〇九年八月 横浜市長退任。
現在「よい国つくろう!」日

本国民会議で国民運動に取り組
んでおられます。中田先生宜し
くお願い申し上げます。

前横浜市市長 中田宏先生

私は本年八月一六日まで横浜
市長を七年半勤めさせていただ
きました。

皆さま亜東親善協会が創立六
十周年を迎えるという事で、
このような節目にお招きいただ
くことはとても光栄なことで本
当に感謝しております。

本日いらつしやつている馮寄
台代表とも何度もお目にかから
せていただいておりますが、日
台関係というのは日本にとつて
はそれこそ日米関係が基軸とい
うときに、日台関係はこれから
先、日本にとつては命綱という
ような言い方をむしろ国政にお
ける政治家はしなければいけな
いと私は思っております。

そういう意味では、これから
先もここにいらつしやる皆さん
のこうしたいというのをもつ

と輪を広げて、そして日本人に
より正しい理解をさせなければ
いけないとつくづく思っている
一人であります。

私は今ご紹介いただいた通り
四五歳でありますが衆議院議員
を三期(九年)、横浜市長を二期
(七年半)勤めさせていただきました
一六年日本の政治に携わらせて
もらって来ましたが、日台関係
についての理解が日本人そのも
のがまだまだ薄く一般的理解と
しても薄く、さらには戦略的に
日台二つの国がしつかりと手を
携えて行くことの重要性という
ことの認識についてはなおさら
解っていない方が多いと思えて
ならないのであり、そういう意
味では本日は具体的なお話をさ
せていただいて「なるほど、そ
ういうことがあったのか」とい
うことを皆様にぜひお聞きいた
だきたいと思えます。

まず私は先ほど申し上げた通
り、八月一六日に横浜市長を退
任しましたが【突然辞めた】と
マスコミは言っておりますが政
治家が判断して辞めるというこ
とは、突然かあるいは任期満了
のどちらかしかないのです。一
ヶ月後に辞めますなどと言う方
はいないのであります、それ
はある日スパッと辞めるとい
うことを当然ですが私は意図して
やっているわけであります。

ではなぜ私が辞めたのかとい
うことは皆様にはせつかくです
のでお話ししたいと思います。

私は任期八年で横浜市市長を
引き受けており、任期の八年で
横浜市を立て直すということ
で市長選挙に出て市長に着任させ
ていただきました。来年三月で
任期満了ということなのですが、
私がな八月一六日に退任をした
のかは簡単なことで衆議院議員

選挙に日程を合わせたのです。

金を減らしました。

つたのだというところもあり、民主党がそれをできるのかという問題はまた別問題でもあり、むしろいろいろな約束を彼方此方にはば撒いているわけです。

来年の三月では遅いと思ったのです。

なぜ合わせたかというところ、それは自民党と民主党が手を組めないようなのです。横浜市は市会議員の方々は自公民でポスト中田を作ろうとすればかりを考えていました。これは国会ではありえない話で、地方になりますといろい事情はあるにせよ横浜市政もこの二〇年以上に渡って自公民の相乗りなのです。勿論民主党ができる前は社会党ですが、これで選挙をやってしまうのです。改革という抽象的な言い方しか本日はできませんが、横浜市政でこの七年半私には様々な改革をやってきました。

借金六兆二千億という首も回らない状態で私は市長を引き受けました。財政を健全化しないことには福祉を語ろうが、教育を語ろうが、インフラを語ろうが、何を語ろうが実現などするはずがなく、これから先日本が活力を持って消費社会の中で、高齢社会の中で社会を営んでいくということは一度しつかりと棚卸作業をして、そして各部門を適正サイズにし、その上で何に重点を置くのかという処に予算配分をしていくということをしなければならぬと思います。

恐らく今回衆議院選挙で自民党が大きく負けてしまったというところについては、なかなかそのことが踏み込んでできなかったこともあり、民主党に対する淡い期待はそこに繋がってしま

横濱市長選挙というのは単独選挙で過去三二年に渡る八回の選挙で投票率が三〇%いくかどうかなので、残念ながらこれは労働組合や労働団体、宗教団体の票で決まりです。なので私は衆議院選挙に日程を合わせて、自民党と民主党が絶対に手を組めない選挙にしてそして投票率は七割行きますので横濱でも六七%投票率になります。これは労働組合や労働団体、宗教団体がどんなに逆立ちしても簡単に選挙は牛耳ることができないのです。

この七年半それ以上ととっていただいても構いませんが、国会（国政）では借金が一円も減っていません。しかし、横浜市政はこの七年半で一兆円もの借

「中田の後を引き継いだら他の自治体よりはましだから」と好き放題やられたのではたまたまありません。これは私ではなく横濱市にとってプラスではないのです。そのことを考えたときに、

ですから折角横濱市政を健全化してきて、それをどうやって次の市長に引き継ぐか。勿論私が次の市長に後継はこの人だというように形で指名をするようなことは今の政治ではなかなか

できないのですが、しかしなるべくまともな市長が誕生するようにそのリスクをなるべく低くするのが市長として最後の仕事です。

民間の経営などでは社長の最後の仕事は次の社長をつくることですか？民間の場合は指名ができませんが、行政の場合ではそれができないのであります。

そういう意味では、なるべく相乗りで労働組合が物を言ってそしてそれが選挙の結果になってしまふような選挙にさせないことが私にとっては最もやれることであつたわけであり、後継の選択はできないが辞めるタイミングは選択できるということで行使したカードであつたということがあります。

産経新聞が今Webサイトで

私の一週間のことを書いてくれているものだからよろしければ後ほどご覧ください。

さて、横浜市長になって私は日台関係をどういう風に形にするかということを行動に移してきました。友好・親善これは日台に限らず様々な二国間関係等々の中で使われる言葉であり、方向性はお互い一致確認したというプレスリリースは出るわけですがしかし私は世の中を見渡してみると形はできているが実態が伴っていないという友好関係はたくさんあると思います。こういったことが目につく世の中で、裏返した言い方をしますが日台関係はまずはとにかく形を作っていくこと重視するところが大事だと私は思います。

どういふことかと言いますと、日本と台湾、横浜と例えば高雄、

横浜と台北、それぞれ交そこそこやってきているのです。

例えば横浜市会議員の方達は高雄市議会と友好議会という形で交流をしてきています。これには私は関わってはいないのですが、これは二〇年以上やってきていることなのです。

そしてインフォーマルな形で非公式にというそうした交流というのは、横浜市は例えば企業にせよ学校にせよ台湾、特に台北市の企業や学校とお付き合いを実はしています。

只、日台間の中でよく出てくる言葉は「非公式」や「インフォーマル」という形で出てきます。私は先ほど申し上げた通り、形にしていくことが大切だと思っています。

ということは、一番都市と都市の間で思い浮かぶことは何か

と言いますと【姉妹都市】です。しかし、姉妹都市を造るとなるとどうなるかと言いますとなかなか大変なことになります。そういう中で形を造ろうという風に私は常々考えていたわけで、私はそれを実際に行動に移しました。

衆議院議員の際に台湾には何度も行きました。私は北京にももちろん行ったことがあります。私の基本は北京に一度行ったら一度以上台湾に行くということです。

そしてその際にご縁があつたのが現在の台湾総統である馬英九總統であります。

私は衆議院議員、馬さんはその当時は台北市長という立場でありました。台北市の市長を務めている馬さんと、まずは衆議院議員という立場で縁ができて、その時はお互いにそれこそある

意味では組織と組織で、こちらは衆議院議員の団の中の一人という形の付き合いでありました。

そして私が横浜市長になり、そうしますと今度は横浜市長と台北市長という関係の中で付き合えるようになったのです。ここからは組織のトップ同士としてお互いに話ができるようになったわけであり、そこで【形】を造ろうと私は言いました。

私、が横浜市長になった平成一四年、七年半前に国土交通省が、当時は扇千景大臣でありましたが、扇国交大臣から私に電話が一本かかってきました。これは直接台湾と結びつくものはありませんが、「中田さん、羽田空港にお金を出してくれ。」という電話でした。

これは今、羽田空港は第四滑走路の工事をしていますが、この第四滑走路を作るにあたって

横浜市にお金を出してほしいという電話でした。私は当時神奈川県知事の知事は岡崎知事でしたが、岡崎知事と相談をしました。なぜならば、お金を出してほしいと国土交通省が電話をしてきたのは神奈川県、横浜、川崎、東京の四つでしたので、東京は石

原知事が出してもいいという返答を既にしており、川崎はまだ悩んでいました。

そして私は岡崎知事と話して出さないという方向に誘導してきました。なぜかという筋が違うからです。

羽田空港を「国際化」するということとは極めて重要な我が国にとつての大きな方針だと思っ
ています。羽田空港の国際化については、私は衆議院時代からずっと言い続けてきたことです。ですから国際化は一刻も早くしたい思いでした。

しかし筋が違うというのは、

羽田空港は日本の中にある空港でも第一種空港といっていて国がすべて管理する空港であります。そして横浜市は空港の管理や、空港の経営、こういったことに全く口を出せる空港ではないわけであり、この空港に横浜にお金を出してくれと言われ
てもこれに対してお金を出すのはおかしい話です。

自分たちが何かやるのではないのに市民の税金を国のインフラのために出すのは可笑しいと言いました。そしてもう一つ、財政法上もありえないことです。地方政法上、市民の利益を横浜市の施設ではないものにお金を出すということは財政法上もおかしな話であります。

結果どうなったかと言いますと、また翌年扇大臣から電話がかかってきました。「中田さん、

羽田空港の整備にお金貸してよ。」となりました。財政法上、貸すのであればクリアできるのが最終的に私はそれで了解をしました。

そして横浜市は羽田空港の整備に三〇〇億円を出しています。そしてその空港を整備するということになった時に、今度は金を貸すという時に国土交通省に対して私は条件をつけました。

それは国際化が重要であり、枠が増える、すなわち離発着の数を徹底して国際に割り当てて国際化のためにあるということを確認してもらいたいということです。

これは第四滑走路ができることで二八万回という離着陸の回数は四〇万回になり一二万回増えることになりましたが、これをどう国内線と国際線に割り振っていくのかということが大きなテーマになります。

さてその時に国土交通省が言っていたのは、「羽田空港は国内空港であるゆえに国内路線に準ずる路線は整備する」というところまでは約束できる。」というのです。国内路線に準ずるとい

るのは、羽田空港から飛んでいる中で東京から石垣島が一九〇〇km代で一番遠いのですが、これに準ずる路線ならば整備ということはあると言われ、そうなる

と飛ぶのは何処かといいますが、韓国ソウル、上海、位しかないのです。

これは、時々羽田空港は首都圏の問題だと捉えられているようですが、私は二〇〇六年と二〇〇八年に二回羽田空港の国際化について「これは日本の最大の鍵である」と論文を出しております。羽田空港は日本の問題なのです。とにかく羽田空港からアジアに飛べる、そしてアジアの諸国から羽田空港に入れる

という状態にすることがアジアにおける日本の存在としてものすごく重要なのです。

今現在どのような現象が起きているかと言いますと、東京では会議はやらない、東京では展示会はやらない、なぜならば悪いという状態になってしまっているのです。かつてはアジアと言えば日本がどこから見ても自他ともに、押しも押されぬ一番手だったのであります。

ところが、例えば航空会社自体がアジアの会議をやるとういうことになったら東京ではやらないのです。ではどこでやるかというところ、例えば航空会社自体がアジアの会議をやるとういうことになったら東京ではやらないのです。ではどこでやるかというところ、例えば航空会社自体がアジアの会議をやるとういうことになったら東京ではやらないのです。

の支店長会議ですら東京は便が悪いためパスになってしまうのです。

日本の地方空港のうち二五の空港が韓国のインチョン空港に飛行機を飛ばしています。そしてその二五のうち成田空港に飛んでいる飛行機は八つなのです。どの空港も国際空港という名前をつけたくて、国際線と言っているのもインチョンにしか飛んでいない空港が山ほどできてしまいました。その結果、海外に行くのであればインチョンから行くとういう風になってしまっているのです。

そうやって羽田空港から世界に出られ、また羽田空港に入れるとういう風になること自体が日本にとって重要であるとういこととは言いまでもありませんが、先ほど一九〇〇kmの石垣島くら

いまでしか飛べないようではだめだと言って主張してきたのが北京、台北であり、少なくともここまで行くと三〇〇〇km、さらにシンガポールや東南アジアを含めると七〇〇〇kmであり欧米に行くのは日帰りで行くことはあまりないので、そういつたことは成田に行くのはいいにしても今や時代はどんどんインターネットでやり取りをできるようになっていいますね。

例えば日本でデザインした電気製品の設計図が海外に送られ、その設計図を元に海外で生産された製品が空輸されて試作を見て、またネットで設計図を送りなおして納品されるようなビジネスが山ほどある中で、アジアくらいには日帰りができるような環境にしていかなければビジネスにならないのです。

それを考えたときに少なくとも

も三〇〇km主張したのは、北京、台北でありこの二つはほぼ距離が一緒なのです。こうして並びたてて行くと、常に二つあるという意識を日本全体にまた、台湾にも中国にも意識してもらおうということがとても重要であることと思っております。

結果これは来年実現し、特に台北市の中央に位置する松山空港に入るようになります。

さて、話は戻しますが私は馬さんと横浜市長と台北市長という関係の中で実現しようと思つたときにこのような具体的な日台間の課題がある中で、お互いに解決をする前進させていくための協定を作ろうと考えました。これを「パートナーシップ協定」と呼び、お互いがパートナー都市であるという形でその協定を結べないかと模索し始めました。いくつかある条項のうち例え

ば筆頭に挙げるのは、この東京羽田と台北との間に航空路を作るということです。そのほか、スポーツの交流や芸術家の交流などについていくつかの項目を挙げてお互いがやっていくという事です。

例えば芸術家というのまた単に潜り込ませるといふ話ではなく、横浜市はクリエイティブシティということで文化・芸術を横浜市の活力のためにどんな奨励していこうということ、私が市長になってから進めてまいりました。

一例を挙げれば例えば「赤レンガ倉庫」は今や中華街に並ぶような横浜の観光スポットです。しかしなぜ倉庫が観光スポットになるのか、倉庫と呼んではいますが今では倉庫ではなく中には商業ショッピング施設やレストラン、文化的な施設ではアートが展示され、ライブが開かれ

るといふような使い方をし、赤レンガ倉庫は年間五〇〇万人以上の観光客が訪れる大変なスポットになっています。

このように今あるインフラを活用して街を起こしていくときに、文化芸術について横浜市は力を入れているので、台北市ともお互いそのようなことをやっていこうと具体的条項を入れて馬さんと協定を始めました。

もちろん我々トップがそのことに合意をしつつ、横浜市の職員、台北市の職員がその事をつめて一年以上かけて段々と形にしてきたのであります。

そしてその時に私は一考しました。それは台北市とこの協定をむすぶという事はまたいろいろと問題が出てきます。そこで私は他の都市ともこの協定を結ぼうと考えました。

実際どこを選んだかと言いま

すと、ひとつは韓国の第二の都市の港町で横浜とも性格が似ている釜山市です。横浜は韓国とは姉妹都市ではありませんが、パートナーシップ都市を釜山と結ばないかと、釜山と羽田空港を結ぶこともやはり大きなテーマでもありました。

そして北京市にも話を持って行きましたが、北京オリンピック前でもありオリンピックを成功させる意味でも横浜からも人が行くということも想定され北京市とも協定を結ぶこととなりました。

さて、横浜市は都市です。都市と都市との交流を進めていくことが大義です。

そしてその大義のもとにこれまで具体的にこのパートナーシップ協定を結ぶべく準備をしてきた物がいよいよ形となってきました。

条項を整理しまとめ、平成一八年五月にするとということで私は進めました。

まず北京の王市長とはじめに会って調印をし、そのあとに韓国釜山で調印をし、そしてそのあと台北で調印するという形で一週間で三つの都市と横浜市のパートナーシップ協定を作ることにしたわけであります。これを横浜市は三つの都市とそれぞれにやっております。ところが、いよいよ最後の調整というところの一週間前に大変な騒動となりました。

中国大使館が台北と北京が同じ協定を結ぶことはできないと話されたのです。

しかし私がやろうとしていたのは都市間交流であり都市と都市が交流することに対して我々はいささかも外交的な配慮を欠いたことはなにもしておらず、



前 横 浜 市 長 中 田 宏 先 生

あくまでも都市と都市との交流であり、国や地域が何かを結ぶならばそれは外交でやって下さいということですが、そして王大使もそうですが「ひとつの中国」という問題が持ち出されま

す。
そのことについて私は王大使を目の前にしたとき「言及するつもりはありません。」「中国の都市と、私どもの都市が交流することに何の問題があるのでしよう？」と申しました。そして、「それでも考えてください、そうしなければ良くない事態になる。」と言われました。

さて、いよいよ出発の三日前に麻布の中国大使館に今度は私から出向きました。その際に言われたのは「岡山市が台湾の新竹市と姉妹都市を結んだ結果、岡山市は華南省の洛陽市との姉

妹都市を取り消されたのを知っていますか？」と言われました。

横浜の姉妹都市は上海です。

これは日中間においては最も歴史のある姉妹都市です。

日中国交正常化されたその翌年に日中間で一番最初に結ばれたのが、横浜と上海の姉妹都市でした。横浜と上海はお互いの国において性格付けも似ているという点と、それぞれの国にとっての大都市ということで結ばれた関係です。

私は最後にもう一度「中国の都市と、私どもの都市が交流することに何の問題があるのでしょうか？仮に上海市がそのような行動に出るのならそれはそれまでです。そのことで一体どちらに利があるかということとは、大きな損失をするのは上海市だと思います。」と言い一息つきました。

そしてそのあと大使は「解りました。しかしその前に聞いてもらいたい。」と持ち出したのが協定書の作り方でした。横浜市

と、北京市とは協定書を作ってお互いサインをして交換をし、台北市とも同じものを作って交換をすること、横浜市が作ったものに横浜市がサインをし、台北市が作ったものに台北市がサインをし、そしてそれを交換するということでした。それならば認めましょうという事でした。

最終的に私も知恵を出しながら作った交換文書はレター形式でお互いの取り交わしをするということになりました。北京も台北も全く同じ文書です。

しかし、横浜市のサインが入ったものを台北市長に渡し、もちろん台北市がサインしたものと自分がサインしたものを両方を手元に残して向こうにも両方残

し、要するに北京市との紙は横に繋がっており台北市との紙は真ん中で二枚になっているだけという状態の違いで、最終的にはまったく同じ協定を北京市、釜山市、台北市と交流を始めることとなりました。

私は先ほども言ったように、形をひとつずつ作って台湾と日本との間に市民もお互いが意識をするということをしていくことが今後の関係にとって重要だと思っております。

それは親善や友好ということを横浜市民に伝えても反対する人は誰もいないでしょう。

しかし、台北市と横浜市はパートナーシップ都市ですと、パートナーに準ずる姉妹都市なのでとってお互いを意識し合うこと、そして定期的なパートナーシップ都市だからという形で会える環境にするということ

を形として作っていくということが重要だと思っています。そうでないと友好や親善はいいがそれは漠としたものでしかなく大方の国民市民にとっては反対はしないしいいことだけでも具体的な形というものが見えないということになってしまふのです。

今横浜市の高校生が台北の高校に行く、台北の高校生が横浜市の高校に来る、そしてお互いに例えばスポーツの交流戦をやるといふようなことを毎年行っています。

生徒たちには、たまたま台北なのではなく横浜市と台北市はパートナーシップ都市だからこいつた交流を行うのだからちゃんと説明して意識付けをしているのです。それは中国と作っていくのもよいでしょうし、台湾の他の都市ともどんどんそうい

うものを作つて他の自治体も大いに正式な関係を作つていくことが必要ではないかと私は思つております。

今申し上げたこのパートナーシップ都市と言うのは、横浜市は平成一八年に結びました。そして今、横浜市と台北市はまだもつてパートナーシップ同士ということになっています。

申し上げたように上海市と横浜市は姉妹都市でありますが、昨年平成二〇年は姉妹都市締結三五周年という年にあたりました。その前年平成一九年が日中国交正常化三五周年ということでありました。

そして私は上海に行きました。三五周年ということをしレセプションとお互いあため、さらに姉妹都市として今後も交流していくことをまた上海の市長とサインをしました。そし

てそこで上海を出た後どこへ行くかという時に、私が行つたのは台北市でした。

これは平成二〇年の一〇月の話なのでちょうど今から一年前になります。馬総統になって兩岸の間に飛行機が就航しました。今では一週間で二七〇便、一日四〇便弱（往復）で飛んでいるのです。

私は上海市から台北市に飛ぼうとしたのですが、これがまたとても大変でした。

出発の三日前に上海から台北に飛ぶことが先方に解つたようで、そのことでまた大使館との交渉です。「上海から台北に行くことの何がいけないのか？」と聞くと「中田さんのような重要な人物が乗るのは駄目。」との返答でした。

結果的には上海から台北に行くことができませんでしたが、同じ工程で上海に行つた他の市長も私

と同じことを言われ、その方は結局一度成田に戻つてから成田から台北に飛ぶということになったそうです。

上海の市長にはそれまで、とにかく上海から直接台北に行くのはダメだと大使館からも言われ、上海市政府からも横浜市役所に抗議が入りました。

しかし、最後に上海市長が私を見送つてくださった時に言つていた言葉は「我が中国の地、台北の市長によろしく。」という言葉が見送りの言葉でありました。

それを馬総統に伝言しましたが、馬総統は苦笑いしながら「私ならばそんなことは一切言わず、何度でも往復してくださいとむしろ奨励するけどな。」とおっしゃっていました。

実際に地方自治体が今申し上

げたロジックで、すなわち都市と都市との交流というロジックで何かをやるというのも、今あえてお話ししたのはそれでもそういつたいろいろな横やりが発生しますが具体的に形にすることが何よりも重要であるのでそのためにはノウハウは大いに活用していただきたいと思うのです。

実際に日本国民が台湾を意識する機会を私たちは多く作つていく必要があると思つていますし、それは台湾側にも同じことだと思ひます。

両国の国民感情は極めて良好であることはご承知の通りで、お互いそれぞれの相手国に対しては極めていい感情をもつています。ただ、一方では日本人が台湾の今の現状について十分な一般的基礎知識として知つているかと言うと、なかなかそのことを分かつていないという人が

最近は増えていきます。

そういう意味では、形をつくって交流していくのはぜひ皆さんがそれぞれの中央自治体などで広げていただきたいと思うのです。

実は馬總統が總統選挙に出る際の公約の中に「松山空港と羽田空港の間に飛行機を飛ばす」というのがあったのですが、これはこれまでの経緯で松山にたどり着いたわけであり、台北と東京間の飛行機は今もありますのでこの場所が松山ということはおそらく日台関係にとってはプラスだと思います。

しかし、松山でも騒音問題を近隣住民と抱えていて住民との話し合いの中でなかなか夜間の離発着は厳しいものがある。そうすると今の羽田では夜間の離発着はほぼ自由化されている状態

ですが、羽田から夜飛ばそうとすると着陸の際の松山に着陸できない状態になってしまうのです。このような問題にはなんとかしたいという事で台湾の航空行政当局には相当頭をひねっていただいているところであります。

週末には台湾に遊びに行くなど、今現在でもあるものを更に利便性を高めることがお互いの理解のためにはさらに重要なことだろうと考えております。

さて、馬總統就任式でお会いしてその後も私も横浜市長を退任しておりますが、台北でのデフリンピックの招待を台湾の各市長からいただき、デフリンピックの開会式にも市長を退いた後の挨拶がた行つてまいりました。その時にも各市長ならびに馬總統ともお話をする機会をもちました。本当に退任の挨拶ということでありましたが、

馬さんからは直筆の手紙を頂いたり、更に今後の関係も深めていきたいと思っておりますが、今台湾は中国との間で経済協定を結ぶ事を含めて馬政権になってからいろいろな形で兩岸関係の新たな政策展開を見せています。

馬さんと一〇年以上付き合ってきたてつくづく思うのは、馬さんは極めてリアリストだということであり、台湾国民を考えたときに経済をしつかり確立しそして台湾の国力を高めるということに向けたことを根底には考えながら様々なことに当たっていると私は理解をしています。

その中で経済協定を中国とどのように結ぶのか等々の話に私もやはり注目をしているわけであり、ECFAがどういった形で台湾として結ばれて行くのか、やはり中国とだけでなく他の

国々とも同時に結ぶようなそのような台湾のやり方はできないのだろうかと思っております。

馬さんはリアリストだと申し上げた通り、それは方向性で言うならば私は馬さんの描く中道路線があると思うのです。その中道というのは政治の世界の中においては大変な難しい試練を常に与えられることであり、それは明確に黒か白か、右か左か、赤か青かということはある簡単なであり割り切りはできるわけでありまた明確にそれ国民に言うことによつて、国民や支持者の人たちはそのことに対して支持をしてくれるわけであつて、

それならばそのほうがある意味では政治家にとつて楽です。現実の不祥事は理想だけでは回らないし、イデオロギーだけで回る時代ではないし、という中においては中道路線が何を目指

す路線なのかを明確にしながら歩いて行くということは当然あってもいい現実的な理想論だと思つていますが、それはなかなか大変なことです。

そういう意味では馬政権がこれから先どういう風に台湾と言う国をしつかりと国際社会の中で存在させていくのか、もちろん経済がなければということ、これは実は台湾だけの悩みではなく日本にも同様の悩みを抱えています。日本も今の(平均一%ほどの成長しかできない)経済状態で行くならば平成五〇年、今から二九年後にはゴールドマンサックスが出している統計で言いますと、日本経済は第二位ではなく第三位になると、それが今の状態で行くと第八位の国になります。

日本にとつても経済は今まで

と同様なやり方では通用しない難しい時代になっており、そうなるオバマ氏がAPECの後三日間行くらしいですがマーケットとしての魅力、あるいは生産拠点としての低コスト、こういった観点から中国に目が向いていくというのはある意味経済人は当然のことだと思います。

しかし、その当然の中のことにおいても果たしてどういう具合で経済協定が台湾で結ばれていくのか、こういうことを我々は注視をしていかなければならないと思いますし、あるいは日本の台湾を重視している我々のような者からすれば若干の不安を抱えて見ているというのが正直なところだろうという風に思っています。

是非ここは、経済は当然重要なことながらだからこそ日本と台湾はお互いに経済においても

良きパートナーとしての連携を戦略的に進めていく必要性があると思います。

例えば、横浜にパソコンを作るメーカーで工人舎という会社があります。若者はよく知っている会社なのですが、なぜならばA4サイズよりも小さな超小型パソコンの分野では相当なシェアと出荷台数を誇っているブランドなのです。

この工人舎は台湾のインベンテックと組んでそして上海での生産拠点を持っています。というのは今やパソコンは世界の過半は中国での製造になっています。日本でパソコンそのものを組み立てているのはヒューレッドパッカードだけです。

今や東芝も富士通もNECも組み立ては大方中国でやっていますが、ただそれらのメーカーはフルセットで、自分たちで中

国に出て行くという形の進出方法でこれは中国だけではなく、日本の製造業が出て行く場合例えばベトナムに出て行く、インドネシアに出て行く、例えばそういう場合でも自分たちの資本で、自分たちで合弁は作るにせよフルセットで出て行くというケースが多いと思います。

ところがこの工人舎は台湾のOEM供給の最大のメーカーであるインベンテックとがうちに組んで上海に行っているのです。これは、私はこれからのビジネスモデルとして極めて重要だと思います。インベンテックのパソコンは非常にデザインが良く、そして超小型で性能としてはフルスペック入っていて、しかもDVDも見ることができ当然インターネットやメールもできても人気があります。

でもそれを日本の工人舎はデザインや設計の能力に非常に長

けているのです。しかし、コスト的にそれを日本で作るということとは今や難しいということ、それを作るという時に中国を選択肢であるというのは認めつつ、その時に台湾のインベンテックと組んだこと、これは私はものすごくいいビジネスモデルだと思います。

そのことはこれからの日台関係にとっても重要な組み方であるし、経済的に組み方としてやはり上海に進出するときには、独と中国と交渉するのではなく、台湾の会社と一緒にあって向こうに乗り込んでいくということがいわゆるチャイナリスクを減らしていくという意味においても重要な組み方だという風に思っています。

そうしたことをぜひ日本と台湾の両政府は進めていく必要が

あると思いますし、そして馬政権においては、若干我々はどうなるかということについて希有であればいいけれども不安を持ちながら注視をしているところでありますから、そこについても良き馬總統のリーダーシップを私は友人としても期待していきたいと思っております。

そしてそれぞれの地域においてより日台関係というものを形にし、その形から今度は実が伴うという形を多く作っていくということを私は切望してやまな訳であり、もしそのノウハウが必要でありましたら私に言っていただければお手伝いをさせていただきます。と思っています。

記念すべきこの会にお呼びいただいたことを改めて感謝申し上げます、私からのスピーチとさせていただきます。と思っています。



社団法人亜東親善協会

創立六十周年 第三部 懇親会

衆議院事務局憲政記念館会議室

開会の辞 当会副会長 張建國

当会会長の挨拶の後、来賓を代表し、財団法人交流協会会会長 服部禮次郎様よりご祝辞を頂きました。

元衆議院議員 橋康太郎副会長の御発声で乾杯し懇談会に入りました。

当日は、代表處、顧問国会議員、関係諸団体、留学生、会員の皆様等、三〇〇名余りのご参加があり、盛大な六〇周年記念式となりました。

当協会 張碧華副会長の中締めで、無事お開きとなりました。誠に有難う御座いました。

謹賀新年 平成二十二年

<p>台北駐日經濟文化代表處 代表 馮 寄 台</p>	<p>財団法人交流協会 理事長 畠中 篤</p>	<p>財団法人台灣協会 會長 園部 逸夫 理事長 齋藤 毅</p>	<p>国民新党・政調会長・国政対策委員長 衆議院議員 下地 幹郎 東京都千代田区永田町一、一、一 衆議院第一議員会館六、五号室 電話〇三三、五〇八、七三八〇</p>
<p>衆議院議員 平沢 勝栄 東京都千代田区永田町一、一、一 衆議院第一議員会館五、七号室 電話〇三三、五八二、五一一</p>	<p>参議院議員 大江 康弘 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館五、一七号室 電話〇三三、五〇八、八五一一</p>	<p>参議院自由民主党幹事長 参議院議員 谷川 秀善 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館四〇号室 電話〇三三、五〇八、八四四〇</p>	<p>参議院議員 松下 新平 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館三三号室 電話〇三三、五〇八、八四三三</p>
<p>参議院議員 矢野 哲朗 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館七、九号室 電話〇三三、五〇八、八七七九</p>	<p>参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館七、一四号室 電話〇三三、五〇八、八七二四</p>	<p>前衆議院議員 吉川 貴盛</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處長 黄 明 朗 横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル一階 電話〇四五、(六四)七、七三六</p>
<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 處長 黄 諸 侯 大阪市西区土佐堀一、四、八 日栄ビル四階 電話〇六、(六四四)八、四八八</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處長 周 碩 穎 福岡市中央区桜坂三、二、四一 電話〇九二、(七三四)二、八一〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那覇分處 處長 李 明 宗 那覇市久米地三、一五、九 アルテビル那覇六階 電話〇九八、(八六二)七〇〇八</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處長 徐 瑞 湖 札幌市中央区北四条西四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一、(二二)二、九三〇</p>

謹 賀 新 年 平成二十二年

<p>日華親善協会全国連合会</p> <p>会 長 平沼 赳夫</p> <p>東京都千代田区金田町一・十一・二八 相互永田ビル三階 電話〇三三三〇〇五八六一</p>	<p>日本華商總會</p> <p>名誉理事長兼會長 朱 文 元</p> <p>理 事 長 林 錦 漫</p> <p>東京都港区六本木七・五・一〇 電話〇三三四〇八四四六八</p>	<p>中華民國留日横浜華僑總會</p> <p>會 長 李 瑞 昇</p> <p>神奈川県横浜市山下町一四〇 電話〇四五〇六八二二二四</p>	<p>中華民國留日台湾同郷會</p> <p>名誉會長 詹德薰 黃宗敏 莊海樹 劉東光 黃宗民 陳木川</p> <p>會 長 時 鎮 棟</p> <p>顧問・理監事一同</p>
<p>学校法人横浜中華学院</p> <p>理事長 鄭 尊 仁</p> <p>校 長 施 惠 珍</p> <p>神奈川県横浜市山下町二四一 電話〇四五〇六八二二六〇八</p>	<p>台湾觀光協會 東京事務所</p> <p>所 長 江 明 清</p> <p>東京都港区西新橋一・五・八 川手ビル三階 電話〇三三五〇二二五九一</p>	<p>中華航空</p> <p>日本支社長 楊 辰</p> <p>東京都千代田区内幸町一・二・一一 日土地内幸町ビル八階 電話〇三六三七八八八八〇</p>	<p>チャイナエアラインズグループ （株）タイナスティーホリデー</p> <p>代表取締役社長 國 廣 傑</p> <p>東京都中央区銀座三・八・十三 銀座三丁目ビル一階 電話〇三三五五〇八八〇</p>
<p>アジア問題懇話会 大陸問題研究会</p> <p>会 長 高野 邦彦</p> <p>東京都港区三田五・十八・十一 自由新聞社ビル 電話〇三三四四四四五七七四五</p>	<p>東京日華親善協会</p> <p>会 長 山 蔭 基 央</p> <p>東京都港区千駄ヶ谷一・八・十一 日興ハレス千駄ヶ谷五階 電話〇三三三七九七〇八七</p>	<p>日華親善協会全国連合会理事 大分県一豊日華親善協会会長 大分県議会議員</p> <p>志村 学</p> <p>大分県日田市祇園西五組 電話〇九七一〇三五六六</p>	<p>山梨台湾総会理事 北陸台湾朋友会理事 撃拳・プロデュース</p> <p>寒 雲</p> <p>石川県白山市湊町レ四八・十一 電話〇九九〇三七六八 4313</p>
<p>株式会社ホテル横須賀</p> <p>代表取締役 長尾 和典</p> <p>神奈川県横須賀市米谷浜通一・七 電話〇四六八八五一一二一</p>	<p>株式会社ヒューマックス</p> <p>代表取締役 林 瑞 祥</p> <p>東京都新宿区黄町十三・二十九 電話〇三三五二二二二二</p>	<p>有限会社沖山興業</p> <p>代表取締役 沖山 建夫</p> <p>東京都八丈島八丈町三根二八・五 電話〇四九九六二二〇二二</p>	<p>株式会社昭和総合サービス</p> <p>財団法人台湾協会元會長 故松岡清・三男</p> <p>代表取締役 松岡 晋</p> <p>さいたま市浦和区高砂三・十四・十四 電話〇四八八三二八二〇〇</p>

謹 賀 新 年 平成二十二年

<p>社団法人亜東親善協会 副会長 池田 偵一郎 千葉県佐倉市宮前二・十一・十五 電話〇四三(四八)二一三三・二一</p>	<p>株式会社降旗物産 代表取締役 降旗 武 松本市大字中山セノ棚田七二五・四 電話〇五三(五七)八五八五</p>	<p>後藤泌尿器科皮膚科医院 院長 後藤 康文 岩手県宮古市大通一・二二・四 電話〇一九三(六二)三六〇〇</p>	<p>ヤマザキナビスコ株式会社 代表取締役社長 飯島 茂彰 東京都新宿区西新宿一・六二・二 新宿野村ビル四〇階 電話〇三(三三四四)六二二一</p>
<p>社団法人亜東親善協会 理事 呉 淑娥 東京都杉並区下井草二・二七・二四 電話〇三(三三九〇)一九四二</p>	<p>社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦 東京都代田区外神田三・七・七 電話〇三(三三五七)〇〇三二</p>	<p>社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華 東京都代田区外神田三・七・七 電話〇三(三三五七)〇〇三二</p>	<p>元衆議院議員 社団法人亜東親善協会 副会長 橘 康太郎 東京都代田区丸の内二・二二・一 電話〇三(三三二五)二二三八</p>
<p>あざみ野ローンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あざみ野一・一九・一 電話〇四五(九〇)二九〇二</p>	<p>エイチアイグループ TOKYO DAIHANTEN 代表取締役 李ハロルド 東京都新宿区新宿五・一七・二三 電話〇三(三三〇三)〇二二二</p>	<p>綱マリノロジスティックス 代表取締役社長 小松 省二 東京都中央区日本橋人形町一・二四・八 人形町WINGビル二階 電話〇三(三三六七)一一〇〇</p>	<p>学校法人電子学院 理事長 多 忠和 おのおの ただかず</p>
<p>株式会社自由新聞社 社長 黄 清林 東京都港区三田五・十八・十二 電話〇三(三四四六)一五五六</p>	<p>日華仏教文化交流協会 東京都品川区寿一・一九・一 電話〇三(三三四一)二七七二</p>	<p>社団法人亜東親善協会 理事 程 金 笙</p>	<p>社団法人亜東親善協会 理事 東 達夫 電話〇三(三四六七)一五五五</p>

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生田 光一	長勢 甚遠	鶴保 庸介	棚橋 泰文	世耕 弘成	佐藤 剛男	小島 敏男	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	中村喜四郎	中井 洽	田名部匡省	高市 早苗	山東 昭子	坂本 剛二	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	臼井日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田六左工門	山根 隆治	矢野 哲朗	三ツ林隆志	松下 新平	平沼 赳夫	浜四津敏子	並木 正芳	中川 秀直	谷川 秀善	高木美智代	島尻安伊子	笹川 堯	木村 仁	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上誠一郎	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	長島 昭久	谷川 弥一	高島 修一	下地 幹郎	佐藤 昭郎	小池百合子	神取 忍	金子善次郎	大野 功統	江崎洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林 楊 羅	寄 錦 作 王	台 清 洲 明珠	中田 小田 李 謝	宏 村四郎 海天 文	畠中 黄 李	篤 林 昇	齋藤 林 鄭	毅 瑞 尊 仁	劉 長 李	東 尾 純	光 孝 京
---------	---------	----------	-----------	------------	--------	-------	--------	---------	-------	-------	-------

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤徳一郎				
[副 会 長]	池田偵一郎	張 建 國	張 碧 華	橘 康太郎 大江 康弘	
[専務理事]	崎谷 秀彦				
[事務局長]	南部 晴彦				
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏
[広報担当]	吉村 俊夫	[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子
	多 忠和	藤山 雅康	三浦 信行	李陳 秀鳳	高野 正忠
[監 事]	荘司 隆一				
[支 部 長]					

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

【お知らせ】

○新春互礼会のご案内

平成二二年二月一六日（火曜日）第一部 演芸 一七時～一八時
新春を寿ぎ、福を呼ぶ、落語・紙切り・太神楽・マジックを招聘
第二部 互礼会 一八時十分～ 於 ホテル・ルポール麹町二階
台北駐日経済文化代表處代表 馮寄台閣下も御出席の予定です。

○創立六十周年記念訪台団

昨夏、台湾南部に甚大な被害を齎した台風八号により延期された
創立六十周年記念訪台団は、二月二六日から三月一日まで催行、
宜蘭・台南・高雄・嘉義・日月潭・甫里等訪問予定です。

○記念式典は、十一月十六日 憲政記念館にて開催されました。

第一部・記念式典では、馮寄台駐日代表、平沼赳夫日華懇會長、
清原武彦産経新聞社社長のご祝辞を頂きました。

第二部・塩川正十郎元衆議院議員、中田宏元横浜市長の講演。

第三部・祝賀会では、服部禮次郎交流協会會長より祝辞があり、
顧問国会議員始め、三百余名が参加、盛会に開催されました。

【編集後記】季刊「亜東」新春号

皆様明けましておめでとうございませう。

○創立六十周年記念式、祝辞・講演記録は注意をして、テープ起こしを
致しました、誤訳等有りましたら、恐縮に存じますがご容赦下さい。

○会員各位の御寄稿等、多数のご投稿お待ちしております。

○協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。新春互礼会・旅行
等会員各位のご紹介により、多くの皆様のご参加を期待致しております。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 亜東 (アジアの架け橋) 平成22年 新春号 (No.32)

発行日 : 平成22年1月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

発行人 : 玉澤徳一郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

【お知らせ】

○新春互礼会のご案内

平成二二年二月一六日（火曜日）第一部 演芸 一七時～一八時
新春を寿ぎ、福を呼ぶ、落語・紙切り・太神楽・マジックを招聘
第二部 互礼会 一八時十分～ 於 ホテル・ルポール麹町二階
台北駐日経済文化代表處代表 馮寄台閣下も御出席の予定です。

○創立六十周年記念訪台団

昨夏、台湾南部に甚大な被害を齎した台風八号により延期された
創立六十周年記念訪台団は、二月二六日から三月一日まで催行、
宜蘭・台南・高雄・嘉義・日月潭・甫里等訪問予定です。

○記念式典は、十一月十六日 憲政記念館にて開催されました。

第一部・記念式典では、馮寄台駐日代表、平沼赳夫日華懇會長、
清原武彦産経新聞社社長のご祝辞を頂きました。

第二部・塩川正十郎元衆議院議員、中田宏元横浜市長の講演。

第三部・祝賀会では、服部禮次郎交流協会會長より祝辞があり、
顧問国会議員始め、三百余名が参加、盛会に開催されました。

【編集後記】季刊「亜東」新春号

皆様明けましておめでとうございませう。

○創立六十周年記念式、祝辞・講演記録は注意をして、テープ起こしを
致しました、誤訳等有りましたら、恐縮に存じますがご容赦下さい。

○会員各位の御寄稿等、多数のご投稿お待ちしております。

○協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。新春互礼会・旅行
等会員各位のご紹介により、多くの皆様のご参加を期待致しております。
【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成22年 新春号 (No.32)
発行日 : 平成22年1月15日
発行所 : 社団法人亜東親善協会
発行人 : 玉澤徳一郎
所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階
Tel: 03-3261-6405 Fax: 03-3556-5770
H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>
印刷 : ヨシダ印刷株式会社

心に残る、空の時間。



ご予約・お問い合わせ www.jal.co.jp 国内線 ☎ 0120-25-5971 (営業時間 6:30~22:00 / 年中無休)
国際線 ☎ 0120-25-5931 (営業時間 8:00~20:00 / 年中無休)



Dream Skyward. **JAL**